

反射板付エプロン

昼間



夜間



ドライバーに乗り入れ箇所をお知らせ！

ドライバーに乗り入れ箇所をお知らせし、車の乗り上げを防ぎます。

特長

1 反射板の破損を防ぎます

反射板を製品に埋め込む事によって、反射板の破損を防ぎます。

2 メンテナンスが簡単

エプロンの製品本体の破損がなければ、反射板だけの取替えが可能です。

3 従来のエプロンと同じです

施工方法は従来のエプロンと同じです。

4 反射板の材質

サイズ(mm)：100×50(斜光形)

レンズ部：耐熱アクリル樹脂

裏蓋部：ABS樹脂

色：青

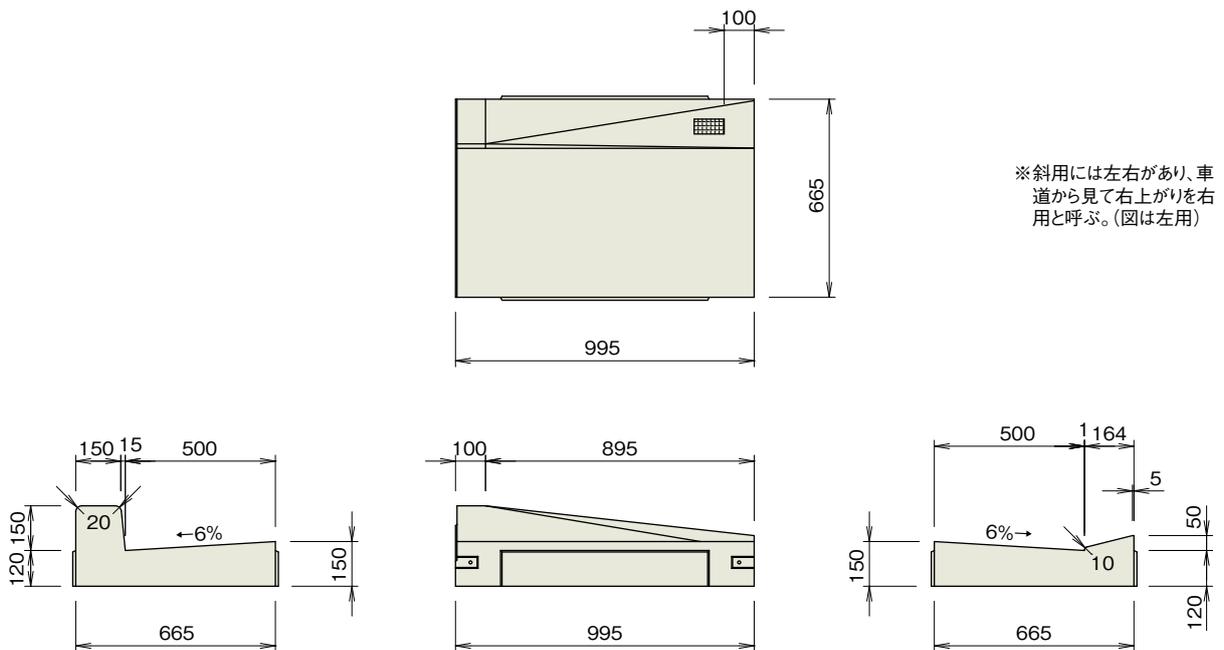
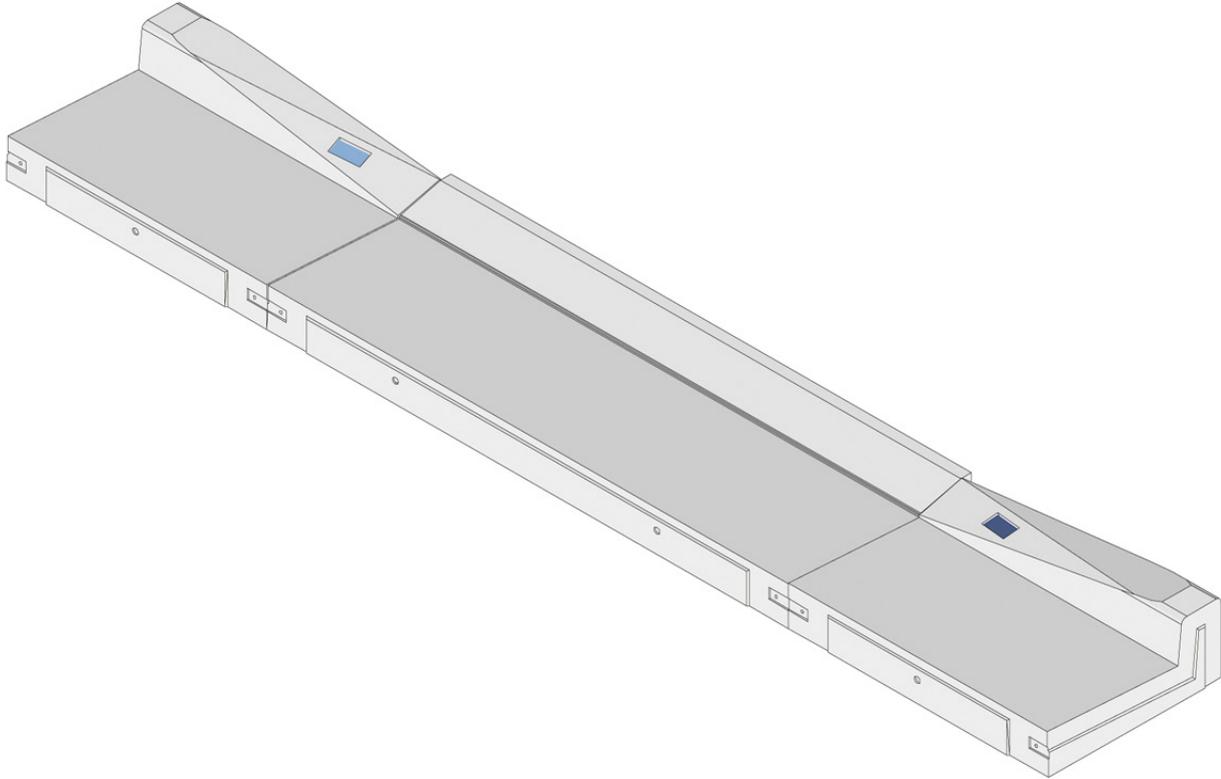
取扱地域 北海道 東北 関東 中部 北陸 近畿 中国 四国 九州 沖縄

※取扱地域が記載されていない地域については、担当営業所(P488)にお問い合わせください。

製品図

(単位:mm)

PGF515-S1-A-B3 型(PGUF タイプも製作可能です)



注)面取り・吊り孔・テーパ等製作上必要に応じて加工する場合があります。

カルバート・
下水道

擁壁・
法面保護工

道路

高速道路

水路関連

河川・海洋・
環境

貯留・
防災システム

通信関連

建築・宅造

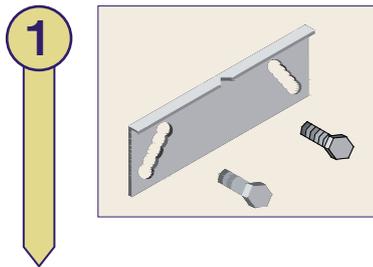
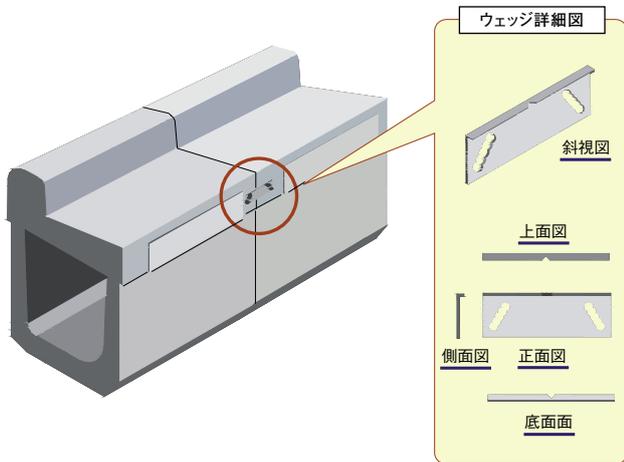
特殊工法・
新素材

参考資料

コンクリート製品連結金具PAT

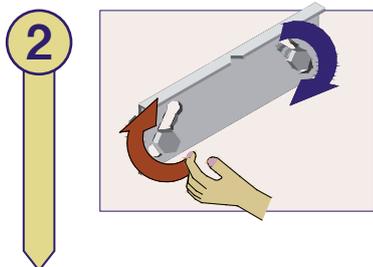
ウェッジの取付方法

A. 新タイプのウェッジ

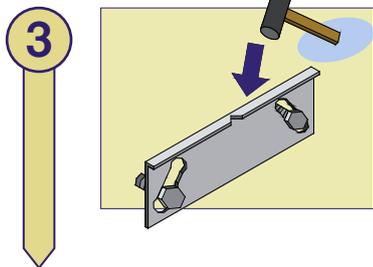


①ウェッジはプレートと2組のボルト、ワッシャでエブロンを連結します。

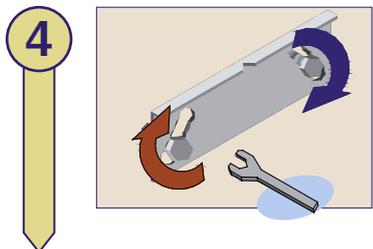
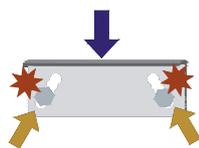
使用工具



②折り曲げ面上側にして、プレート穴にボルトとワッシャを差し込み、手でボルトを締めて固定して下さい。その際、プレートはできる限り水平に取り付けるように注意して下さい。



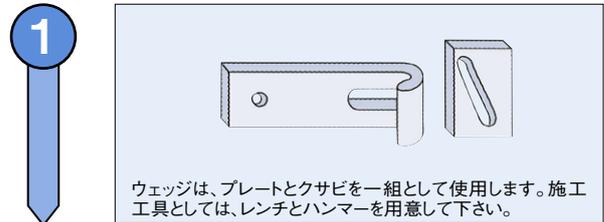
③ハンマーでウェッジ上部の折曲面を叩くことで、ボルト穴への固定が強力になります！(下図参照)



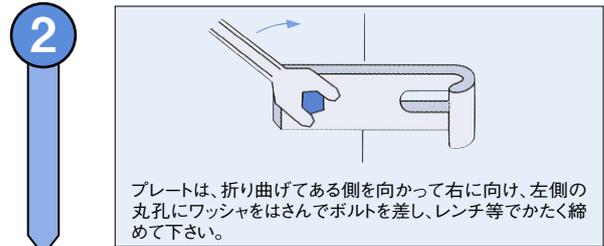
④最後にレンチを使ってボルトをしっかり固定して、全工程終了です。

完成！

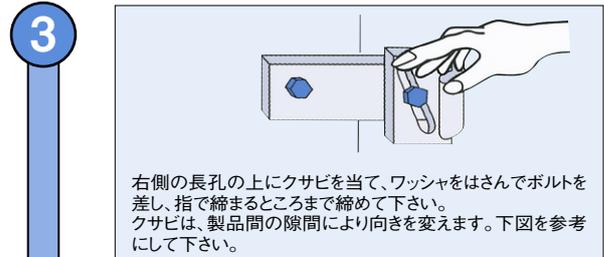
B. 従来のウェッジ



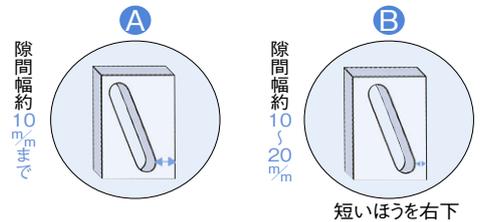
ウェッジは、プレートとクサビを一組として使用します。施工工具としては、レンチとハンマーを用意して下さい。



プレートは、折り曲げてある側を向かって右に向け、左側の丸孔にワッシャをはさんでボルトを差し、レンチ等でかたく締めて下さい。



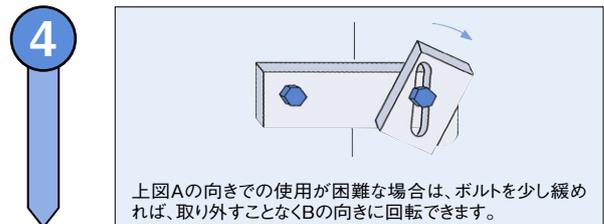
右側の長孔の上にクサビを当て、ワッシャをはさんでボルトを差し、指で締まるまで締めて下さい。クサビは、製品間の隙間により向きを変えます。下図を参考にして下さい。



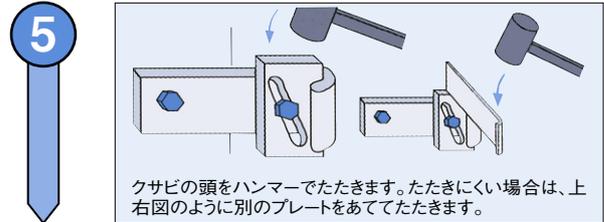
隙間幅約10mmまで

隙間幅約10~20mm

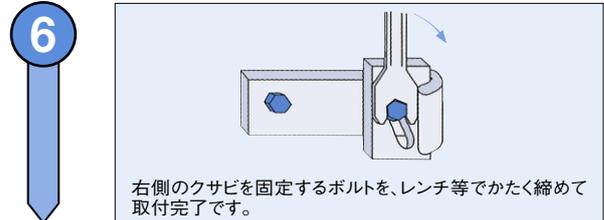
短いほうを右下



上図Aの向きでの使用が困難な場合は、ボルトを少し緩めれば、取り外すことなくBの向きに回転できます。



クサビの頭をハンマーでたたきます。たたきにくい場合は、上右図のように別のプレートをあててたたきます。



右側のクサビを固定するボルトを、レンチ等でかたく締めて取付完了です。

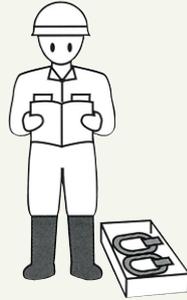
安全確保のために [安全に作業していただくためにこの事項をお守り下さい。]

危険 **注意**

取り扱い全般について



- 法的資格のない人は、絶対にクレーン操作、玉掛け作業をしないで下さい。
(クレーン等安全規則第221条、第222条)
- 吊り上げ運搬中や反転作業中には、つり荷の落下、転倒範囲内に立ち入らないで下さい。
(クレーン等安全規則第28条、第29条)
- 製品が1mを超える物は、必ず4点吊りで行って下さい。又は、1m以下の製品は必ず2点吊りで作業を行って下さい。
- 作業開始前の点検や定期点検を実施して下さい。
(クレーン等安全規則第217条、第220条)



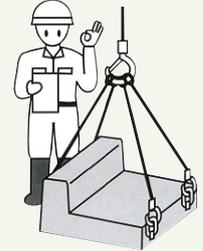
作業前の確認について



- 吊り金具の変形、亀裂、溶接亀裂、摩耗等異常のある物は使用しないで下さい。
- つり荷の条件が次の場合は吊り金具を使用しないで下さい。(吊り穴(インサート)の破損した製品、破損及びクラックの入った製品)



- つり金具に使用するスリング、シャックルは玉掛け作業に適合した物を使用して下さい。



施工する時の安全対策



- 製品の吊り上げ、吊り下げ時には部材の下に絶対、人が入らない様にして下さい。
- 掘削機(ユンボ)での吊り上げ、吊り下げ作業は、絶対しないで下さい。
- 掘削機は回転運動になるため吊り上げ、吊り下げ時、スリングがはずれたり荷ぶれが生じる危険性があります。
- 製品の吊り上げ、吊り下げには垂直に昇降するクレーンなどを使用して下さい。
- 玉掛け作業は必ず有資格者が作業して下さい。



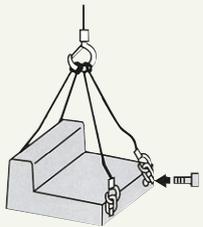
吊り金具の取り付け



- 製品本体の吊り穴(インサート)に吊り金具のボルトを奥までねじ込みセットして下さい。
- 吊り上げ時に吊り金具が外れない様、十分ねじ込めているか確認して下さい。



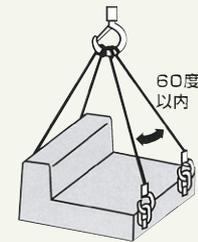
- 吊り金具と製品部材で手、指を詰めない様に注意して下さい。
- 吊り金具セット時に製品を破損させない様に注意して下さい。



エプロンの吊り上げ



- 吊り金具の基本使用荷重を超える製品は、絶対に吊らないで下さい。
- 製品や吊り金具に衝撃荷重が働くようなクレーン操作はしないで下さい。
- 吊り上げた製品には、絶対、人は乗らないで下さい。
- クレーンで巻き上げるとき、吊り金具に荷重が掛かった時点で一旦停止して、安全確認(差し込み深さ、スリングのねじれ、吊りバランス)を確認して下さい。
- クレーンの巻き上げ、巻き下げは、静かに丁寧に行って下さい。



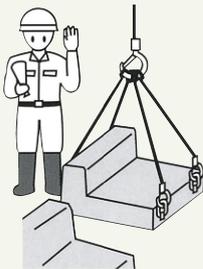
据え付け



- 製品を引きずるようなクレーン操作をしないで下さい。
- 着地前に一旦停止して、次の事を確認して下さい。(製品の傾き、転倒、及び周辺の安全確認)
- 巻き上げ中や運搬作業中には製品の落下、転倒範囲内には、立ち入らないで下さい。



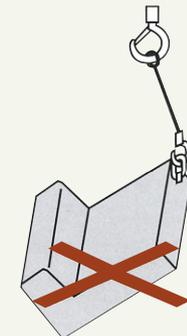
- 製品に大きな衝撃を与える作業はしないで下さい。
- 急激なスピードによる吊り上げ、吊り降ろしは、しないで下さい。
- 製品を破損させない様に静かに吊り上げ、吊り降ろしをして下さい。



金具の取り外し



- 製品から取り外し途中の状態再度吊り上げは、絶対にしないで下さい。
- 製品が定位置に据え付け完了すると吊り金具を外します。この時、取り外した吊り金具は、側溝上に置きします。
- 吊り金具を全部、側溝上にある事を確認して下さい。



- 吊り金具を取り外す際、手、指を詰めないように注意して下さい。

保守点検・保管・改造について



- 吊り金具の改造は、絶対にしないで下さい。
- 吊り金具に溶接、加熱などしないで下さい。
- 保守点検は、事業者が定めた専門知識がある人が行って下さい。
- 保守点検で異常があった時は、そのまま使用せず、ただちに廃棄して下さい。



- 吊り金具は必ず屋内に保管して下さい。